

さけます情報

北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖

そとやま よしのり
外山 義典 (水産資源研究所さけます部門 資源増殖部 事業課)

2020 年の北太平洋

漁獲数

2021 年に公表された NPAFC 統計データによると、2020 年 1～12 月の北太平洋におけるさけます類の漁獲数は 3 億 2,252 万尾で、前年 5 億 5,855 万尾の 58% でした (図 1A)。

魚種別に見ると、カラフトマスが 2 億 265 万尾で最も多く、全体の 63% (前年比 50%) を占めています。次いでベニザケが 5,967 万尾 (構成比 19%, 前年比 80%), サケが 5,341 万尾 (構成比 17%, 前年比 73%) と続き、これら 3 魚種で全体の約 98% を占めています (図 1A)。地域別では、ロシアが 1 億 7,867 万尾 (前年比 54%) と最も多く、次いでアラスカが 1 億 1,891 万尾 (前年比 57%) と両地域で全体の 92% 以上を占めています。以下、日本 2,158 万尾 (前年比 116%), カナダ 246 万尾

(前年比 257%), アラスカ以外の米国 (ワシントン, オレゴン, カリフォルニア, アイダホ州) 84.3 万尾 (前年比 59%), 韓国 5.5 万尾 (前年比 109%) と続いています。カナダと日本, 韓国の漁獲数は増加しましたが, ロシアとアメリカは前年に比べて大きく減少し, 近年の減少傾向が目立ちます (図 1B)。

人工ふ化放流数

2020 年 1～12 月に各国から人工ふ化放流された幼稚魚数は 50 億 984 万尾で、前年 55 億 3758 万尾の 92% でした (図 1C)。

魚種別ではサケが 32 億 9,855 万尾で全体の 65% を占め、これに次ぐカラフトマス 12 億 7,711 万尾と合わせると全体の 90% 近くを占めます (図 1C)。地域別ではアラスカ 17 億 2,610 万尾, 日本が 15 億 9,281 万尾, ロシア 12 億 8,735 万尾, カナダ 2

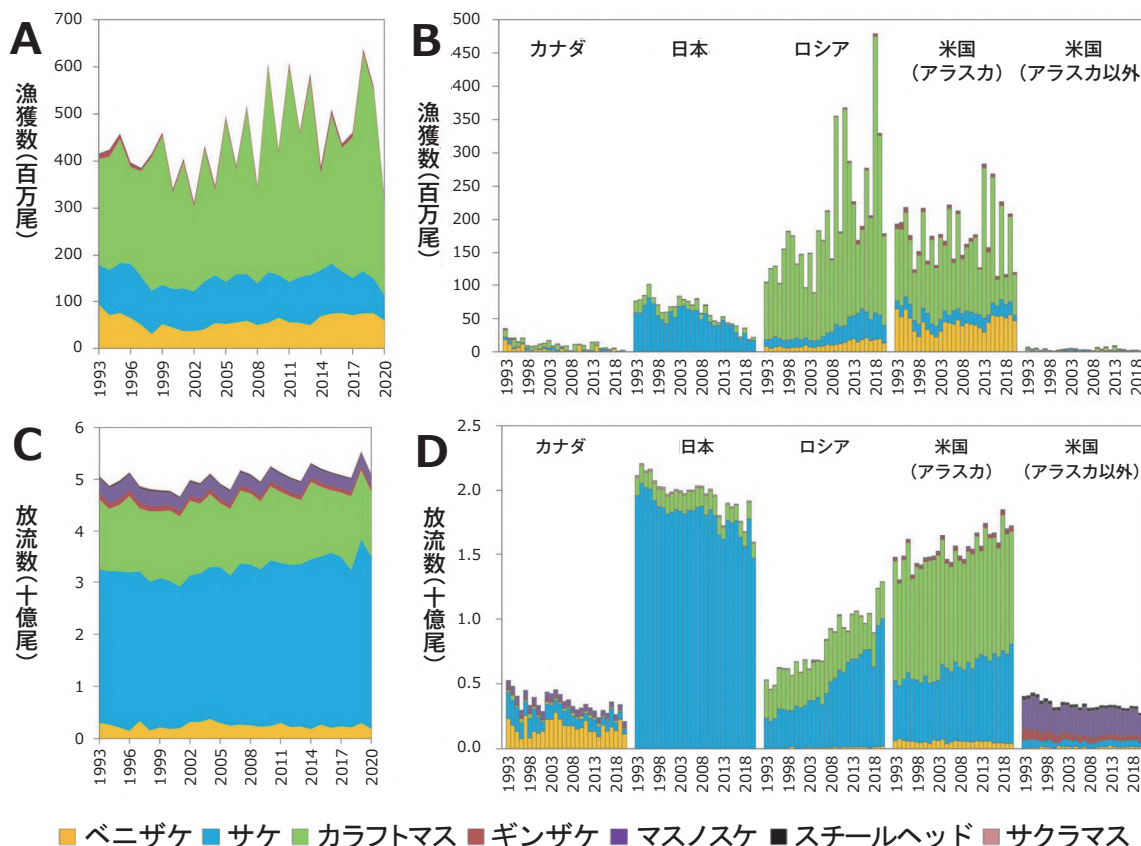


図 1. 北太平洋におけるさけます類の魚種別漁獲数 (A), 地域別魚種別の漁獲数 (B), 魚種別人工ふ化放流数 (C) 及び地域別魚種別の人工ふ化放流数 (D).

A 及び B は「NPAFC Pacific salmonid catch statistics (updated 8 September 2021)」, C 及び D は「NPAFC Pacific salmonid hatchery release statistics (updated 6 August 2021)」より作成 (参照 2021-9-28)。アラスカ以外の米国はワシントン, オレゴン, カリフォルニア, アイダホ州の合計。韓国は他国に比べ漁獲尾数・放流尾数とも僅かなため図中では省略。

億 867 万尾, アラスカ以外の米国 2 億 7,584 万尾, 韓国 806 万尾となっています (図 1D)。

2021 年漁期の日本

サケ

2021 年漁期 (2021 年 8 月～2022 年 2 月) の来遊数 (沿岸漁獲と河川捕獲の合計) は 1 月 20 日現在 1,927 万尾, 前年同期比で 95%と前年よりも減少し, 引き続き低い水準となっています (図 2)。このうち北海道では 1,863 万尾 (前年同期比 102%), 本州太平洋側では 34 万尾 (前年同期比 28%), 本州日本海側では 30 万尾 (前年同期比 45%) と, 本州地区において前年を大きく下回っています。採卵数は 1 月 20 日現在で 11 億 6,554 万粒と, 前年同期の 75%となっています。このうち北海道は計画数の 83%, 本州太平洋は計画数の 15%, 本州日本海は計画数の 73%と, いずれも計画数を下回っています。全国の放流数は計画 (16 億 3,987 万尾) を大きく下回ると見込まれます。

カラフトマス

カラフトマスは 2 年で回帰するため, 偶数年級と奇数年級で異なる繁殖集団を形成していると考えられます。主産地の北海道における来遊数の動向を見ると, 奇数年級は 2007 年以降減少傾向を示しており, 2021 年漁期 (2021 年 7 月～11 月) は 84 万尾 (前年比 18%) と, 1983 年以降で最低の来遊数となりました (図 3)。偶数年級の来遊数は 2016 年に増加しましたが, 2018 年から減少傾向を示し, 2020 年は 474 万尾の回帰となりました。採卵数は 1 億 1,432 万粒で計画数の 66%となっており, 放流数も計画 (1 億 3,840 万尾) を下回ると見込まれます。

サクラマス

2021 年漁期の北海道における河川捕獲数は 12,758 尾 (前年比 82%) となり, 2000 年以降の平均の約 120%となりました。地域別には, オホーツク海区で前年比 53%, 日本海区で 104%, 根室海区で 84%, えりも以西海区で 185%と, 日本海区は前年並み, えりも以西海区では前年を大きく上回りましたが, オホーツク海区と根室海区では前年を下回りました。採卵数は 763.8 万粒で, 計画数の 120%となりました。なお, 2021 年漁期の本州河川捕獲数については現在確認中です (図 4)。

ベニザケ

2021 年漁期の北海道 3 河川 (安平川・静内川・釧路川) における河川捕獲数は 637 尾で前年比 49.3%となりました。

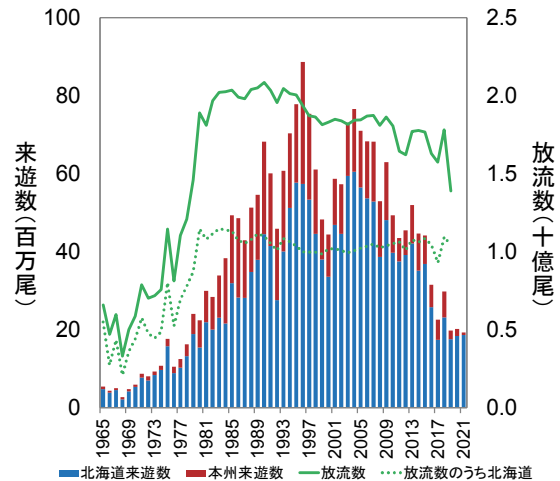


図 2. 日本におけるサケの来遊数と人工ふ化放流数 (2021 年漁期来遊数は 1 月 20 日現在)。

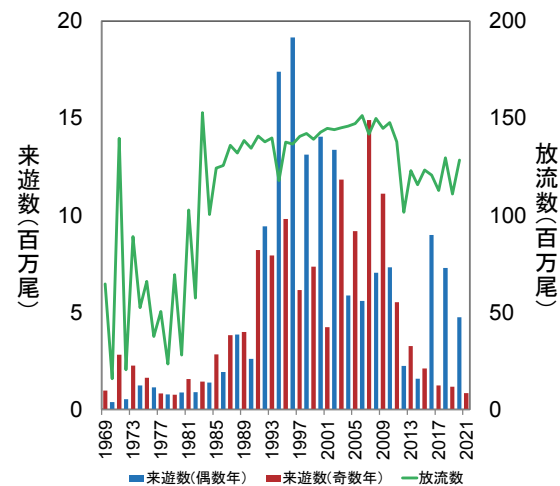


図 3. 日本におけるカラフトマスの来遊数と人工ふ化放流数。

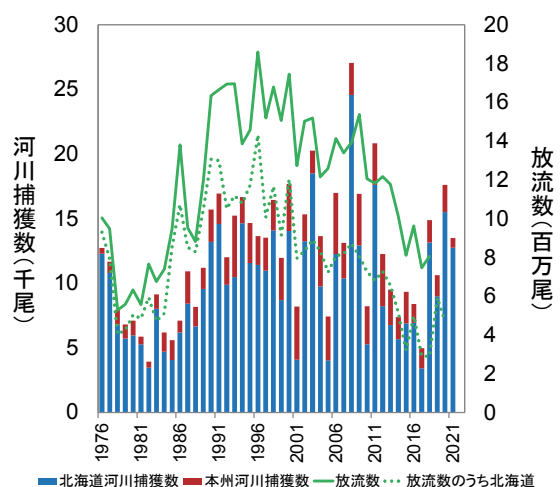


図 4. 日本におけるサクラマスの河川捕獲数と人工ふ化放流数 (2021 年漁期の本州河川捕獲数は確認中)。